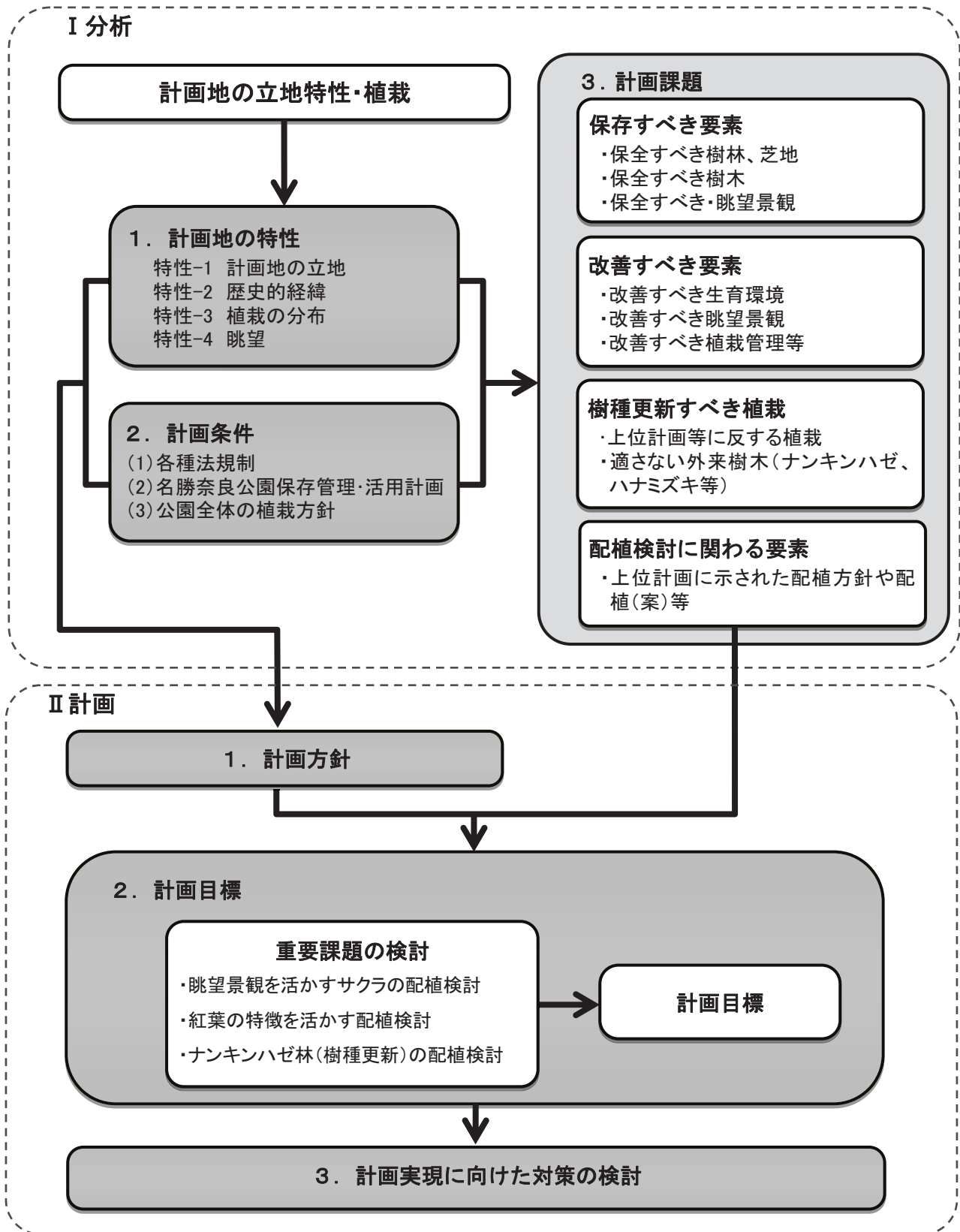


II . 計 画

計画の検討フロー（再掲）



図：計画の検討フロー

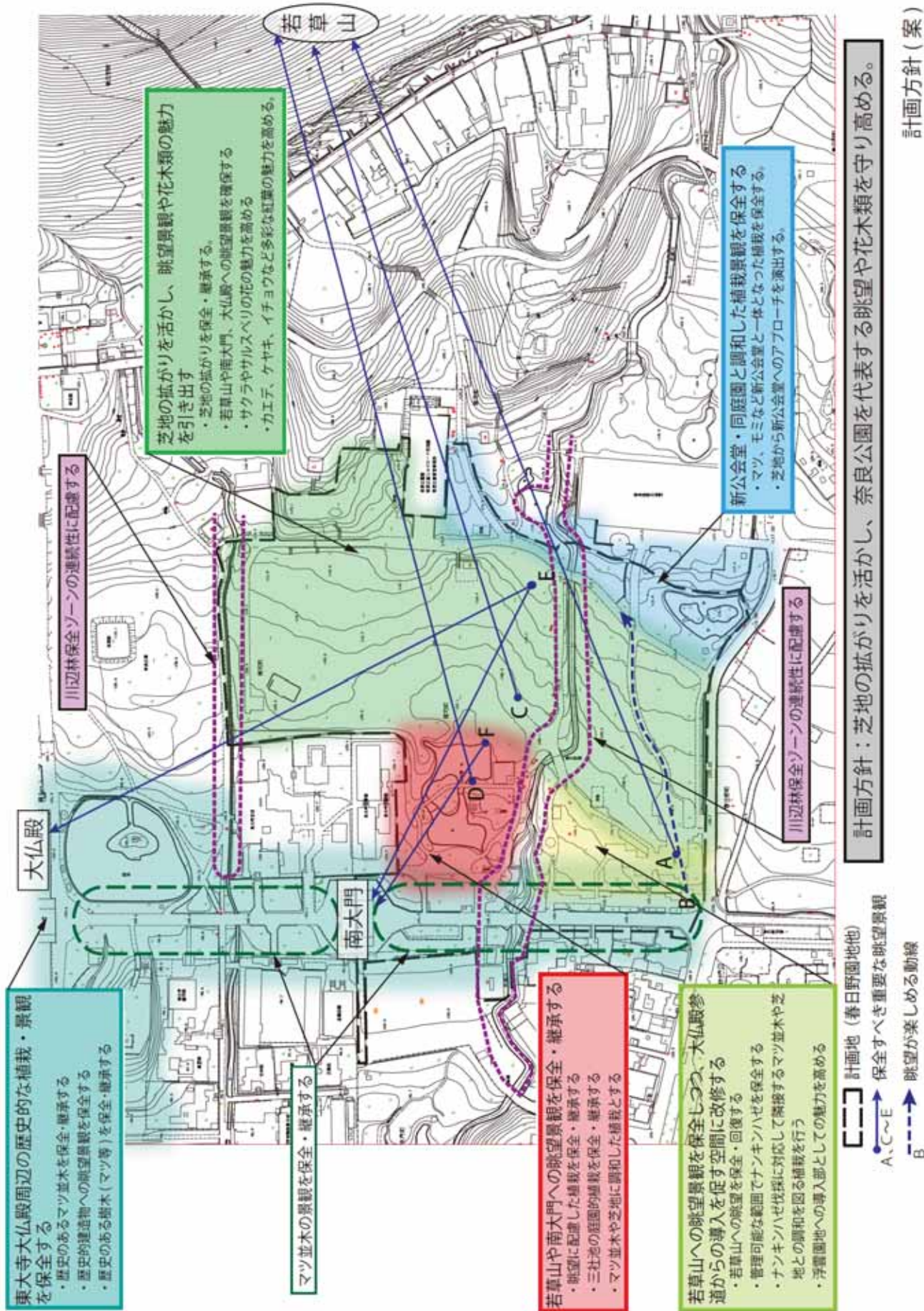
Ⅱ-1 計画方針

(1) 計画地（春日野園地他）の計画方針

計画方針：

芝地の拡がりを活かし、奈良公園を代表する眺望や花木類の魅力を守り高める。

- ・芝地の拡がりを保全・継承する。
- ・マツ類、サクラ類、カエデ類や古木・大木を保全・継承する。
- ・ナンキンハゼは樹種変更する。但し、大木は管理可能な範囲で保全する。
- ・歴史のあるマツ並木を保全・再生し、参道景観を保全・継承する。
- ・若草山や大仏殿などへの眺望景観を保全・継承する。
- ・大仏殿参道から芝地への視線の抜けを確保する。
- ・サクラやサルスベリなどの花の魅力を高める。
- ・カエデ、ケヤキ、イチョウなど多彩な紅葉の魅力を高める。



図：計画方針 (案)

Ⅱ-2 計画目標

計画目標の設定にあたっては、まず計画方針より導かれる重要な課題について検討を行い、その結果を受けて目標設定を行う。

(1) 重要課題の検討

計画目標を設定するにあたっての重要課題として、以下の3点について検討を行う。

- 1) 眺望景観を活かすサクラの配植
- 2) 奈良公園の紅葉の特徴を活かす配植
- 3) 樹種更新するナンキンハゼ林部の配植

1) 眺望景観を活かすサクラの配植

①配植の方針

眺望景観を活かすサクラの配植方針

- ・ 広大な眺望景観の中に何層ものサクラを重ねて、奥行き感のある景をつくる。
- ・ 周辺の主要動線からサクラの景が見える配植とし、来園者の導入を図る。

計画地のサクラは重要な眺望景観の主要な構成要素になっている。その中でも東向きの若草山に向けての眺望では、隣接区域も合わせてサクラが幾層にも重なって見られる状況にある。この特性を活かし、奥行き感のあるサクラの景を作り出す配植とすることが望ましい。

また、計画地のサクラの配植は奥まっていることから、奈良公園の主要動線である大仏殿参道部から見えにくく存在が分かり難い。そこで、大仏殿参道部からマツ並木越しに見える位置にサクラを配することにより、来園者をサクラが楽しめる位置まで引き込むことが期待される。



山麓の尾根部のサクラが望める H26年4月11日
(計画方針-保全すべき重要な眺望点Aから)

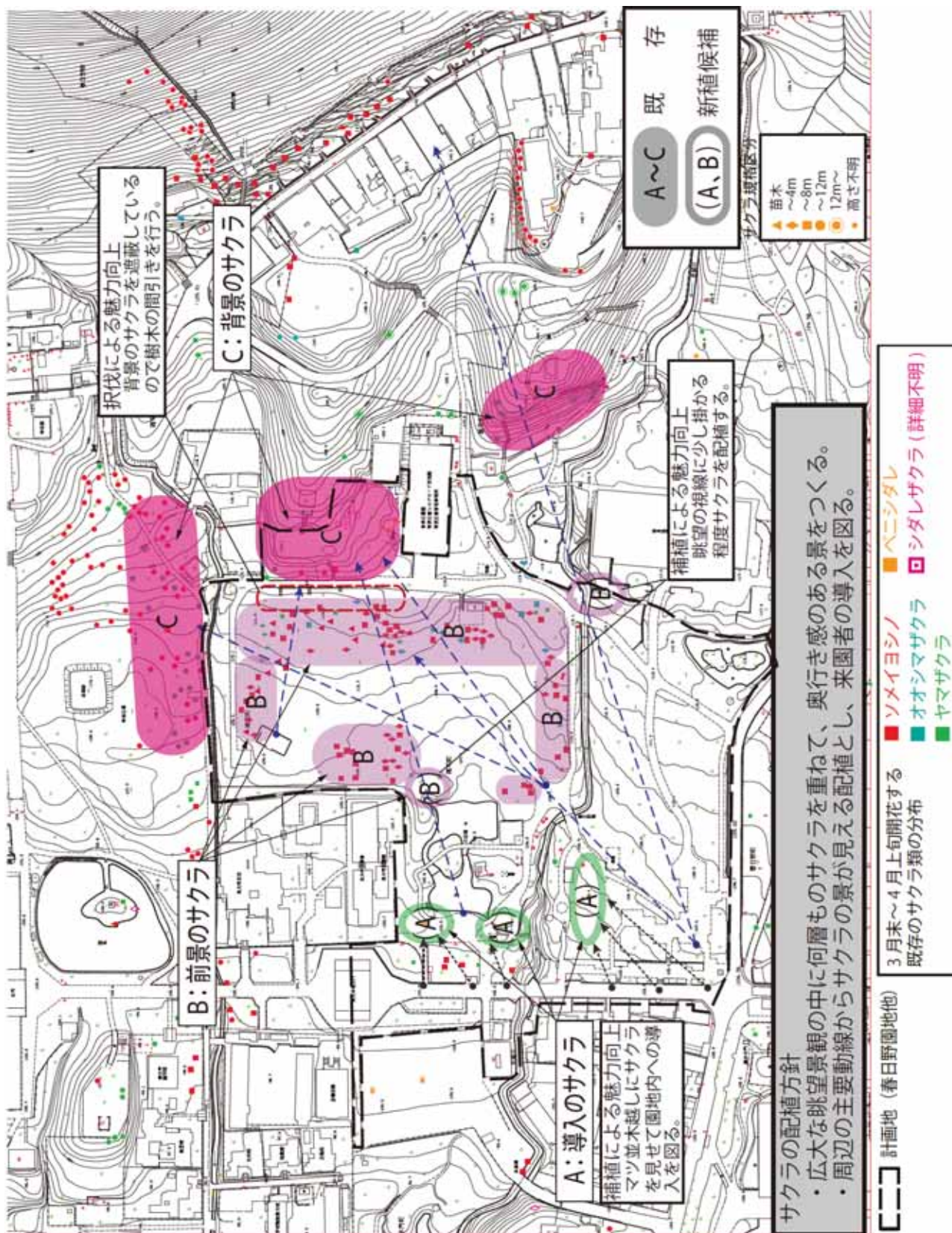


傾斜部のサクラが樹木越しにちらりと見える
H26年4月11日
(計画方針-保全すべき重要な眺望点Cから)



大仏殿やマツを背景にサクラが咲く H26年3月31日
(計画方針-保全すべき重要な眺望点Eから)

②具体的な配植（案）



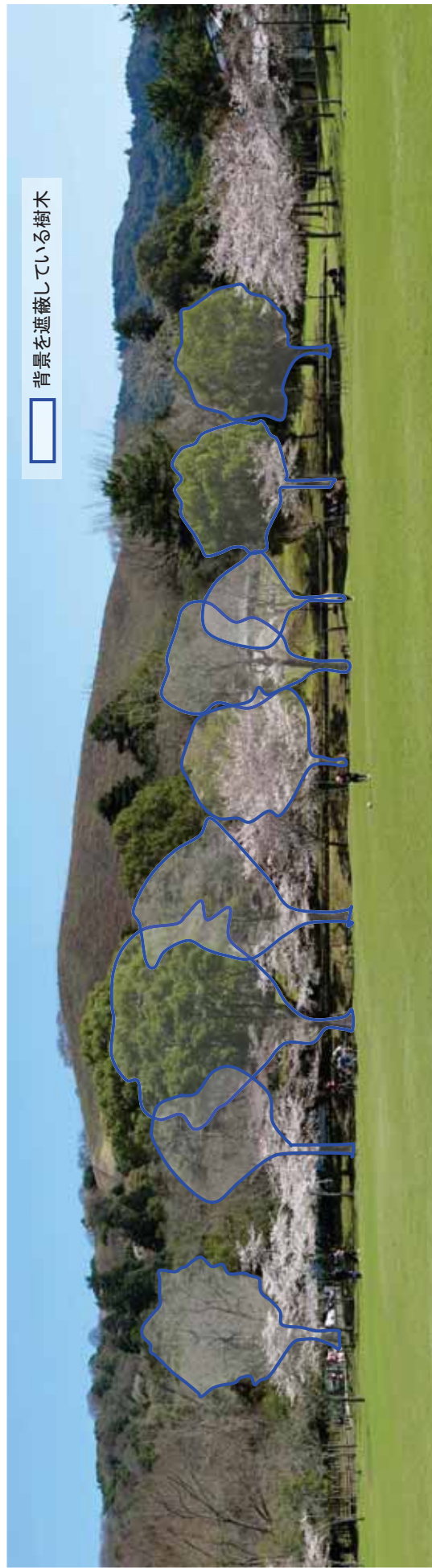
- ・ サクラの配植は、同一時期の開花が期待できる樹種、品種によって構成する。
- ・ サクラの詳細な配植検討は、実施計画を検討する段階で行う。

図：サクラと眺望景観を活かす配植（案）

資料：択伐による魅力度向上



春日野園地南西角からの眺望：前面のサクラは見えるが、背景のサクラは見えない



春日野園地西からの眺望：クスノキとナンキンハゼが立ち並び背景のサクラを遮蔽しているので択伐する。

2) 奈良公園の紅葉の特徴を活かす配植

①配植の方針

奈良公園の紅葉の特徴を活かす配植方針

モミジ、ナンキンハゼ、サクラ、サルスベリ、イチョウ、ケヤキなど

多彩な色合いの紅葉の景をつくる。

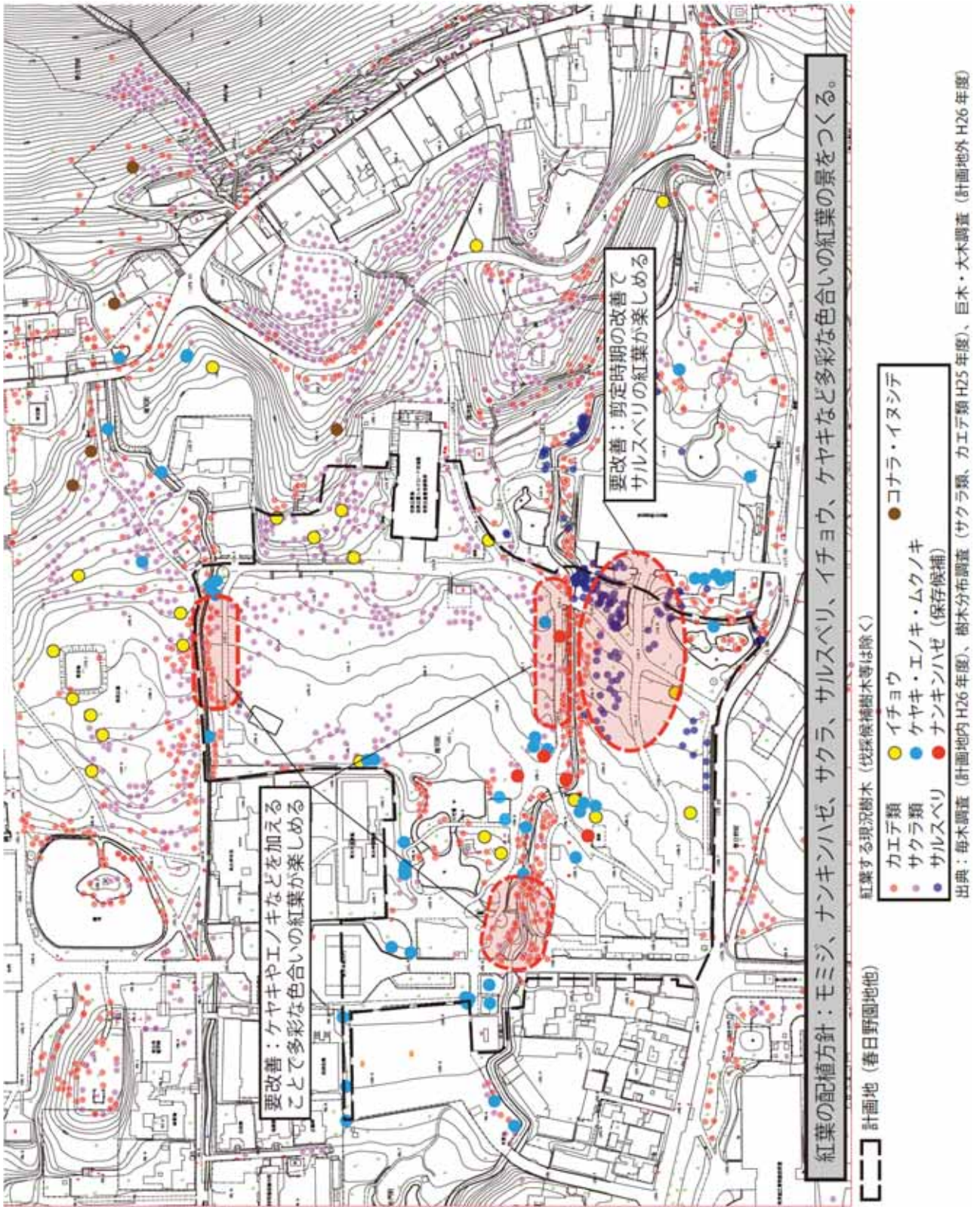
奈良公園の紅葉は、モミジ類だけでなく、ナンキンハゼ、サクラ、サルスベリ、イチョウ、ケヤキなど多様な紅葉樹木による多彩な色合いの紅葉の景が特徴である。この特長を活かした配植とすることが望ましい。

●紅葉する樹種とその時期

樹種	紅葉時期			色調					備考	
	10月	11月	12月	濃赤	赤	橙	黄褐	黄		
計画地内に既存	ナンキンハゼ	■	■		●	●	●			
	ソメイヨシノ	■	■			●	●	●		
	ヤマザクラ	■	■			●	●	●		
	ナラノココノエザクラ	■	■		不明					大木になる性質がある
	ナラノヤエザクラ	■	■			●				
	イチョウ		■	■					●	
	サルスベリ			■		●	●	●		
	ケヤキ、ムクノキ、エノキ			■		○	○	●		
	カキノキ			■			●	●	赤い実が美しい	
	イロハモミジ			■	○	●	●	●		
奈良公園内に既存	ムクロジ		■				●	●	尾根部に多い	
	イヌシデ		■				●	●	尾根部に多い	
	コナラ		■				●	●	尾根部に多い	

参考図書: 奈良公園の植物 北川尚史

②具体的な配植（案）

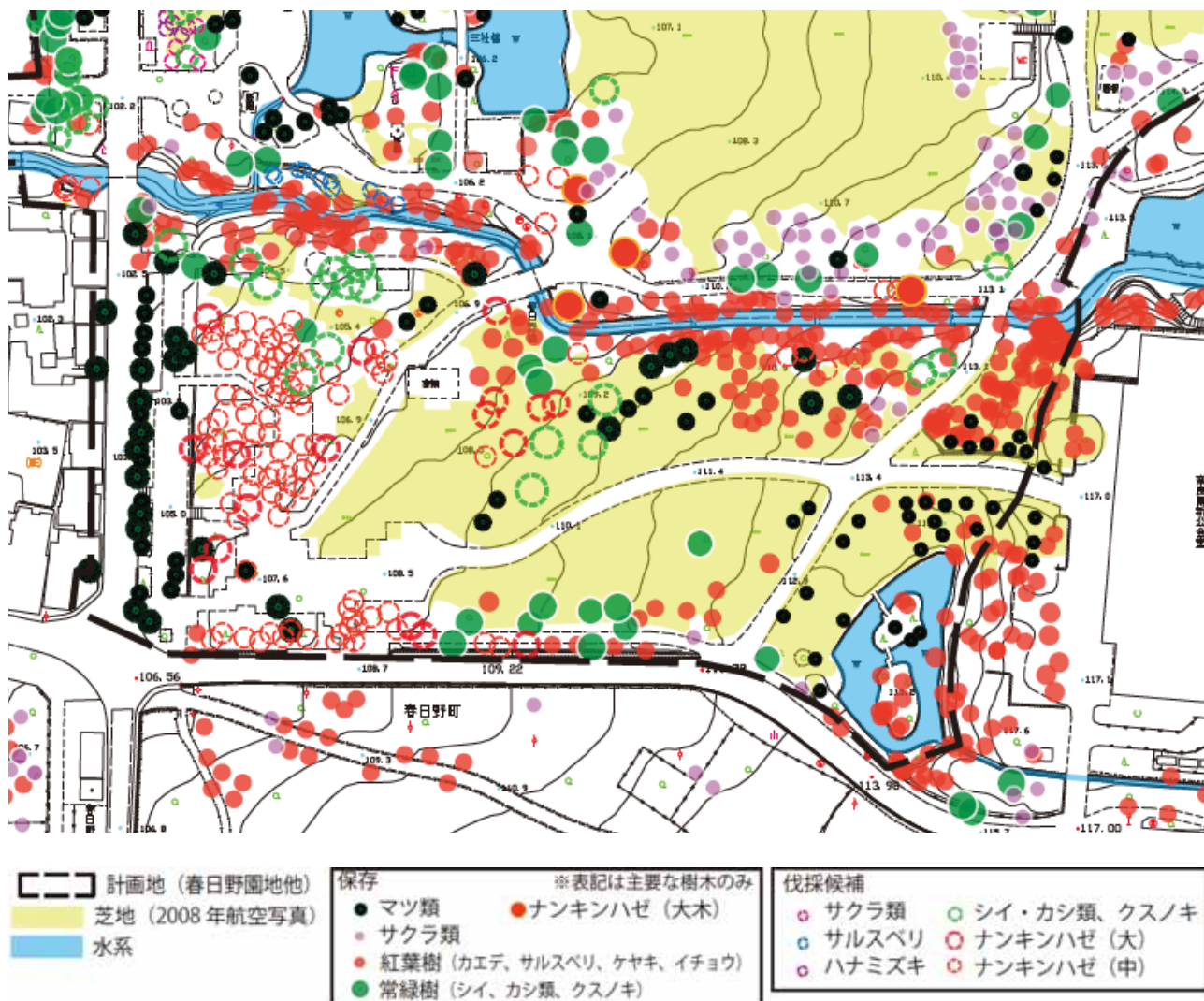


図：奈良公園の紅葉の特徴を活かす配植（案）

3) 樹種更新するナンキンハゼ林部の配植

① 検討条件

- ・ナンキンハゼは、一部の保存すべき大木を除いて全て伐採するものとして検討する。
- ・ナンキンハゼ以外の樹種で、樹種更新や眺望景観改善等の理由から伐採候補となる樹木も伐採するものとして検討する。
- ・前述の「1) 眺望景観を活かしたサクラの配植」「2) 奈良公園の紅葉の特徴を活かす配植」による方針の実施を前提に検討する。



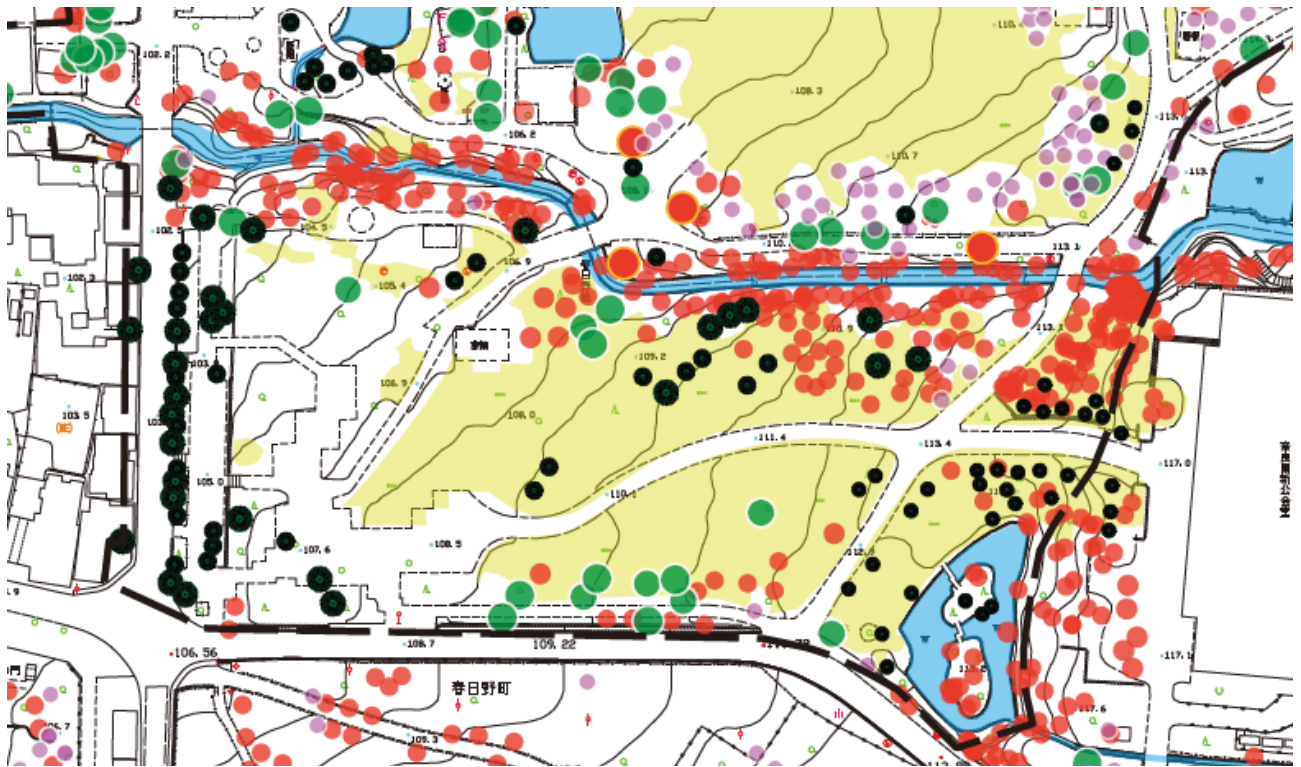
図：現況樹木の保存と伐採

② 配植の方向性

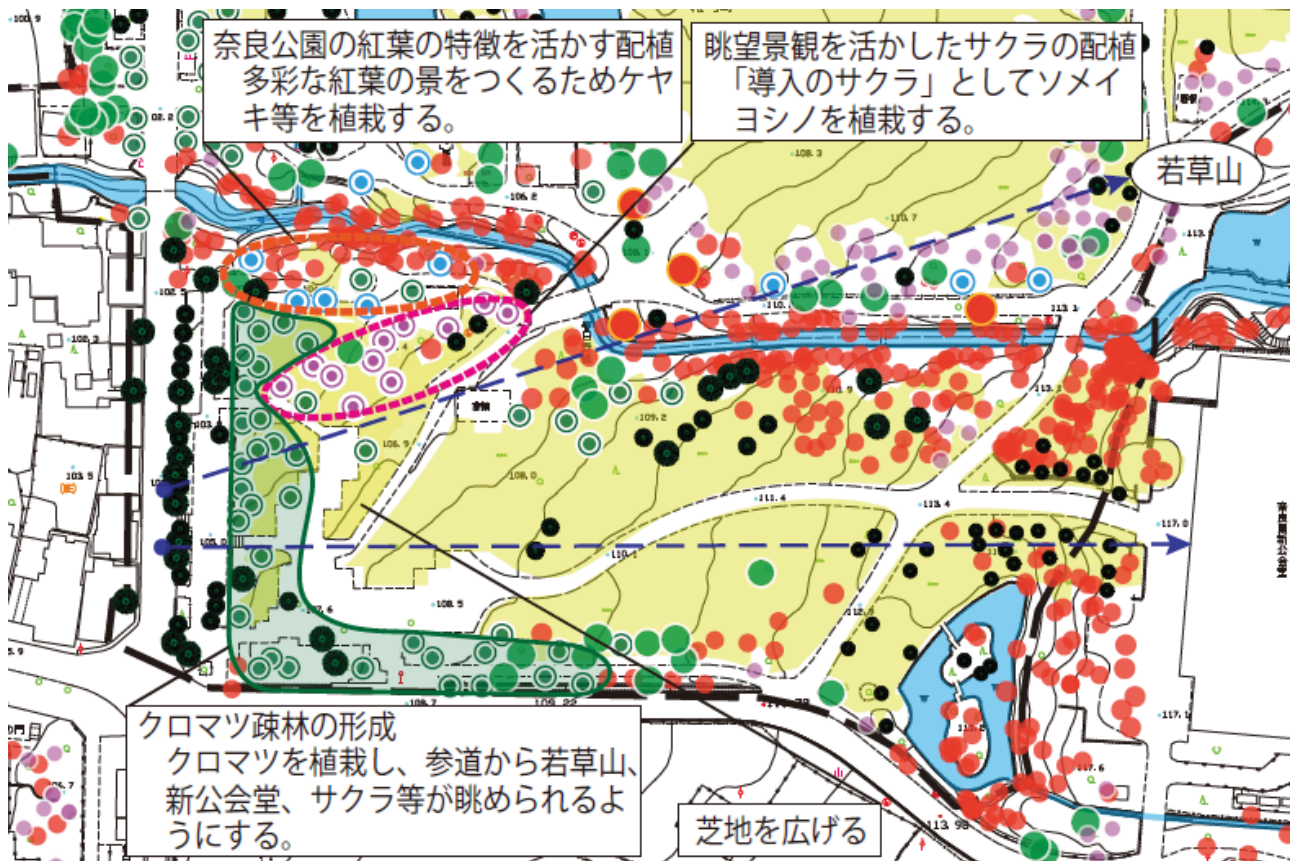
樹種更新するナンキンハゼ林部の配植方針

クロマツ疎林と芝地をベースに、眺望や花木の魅力をアピールする配植とする。

- ・ナンキンハゼ林部の西部分は、大仏殿参道クロマツ並木と同調するクロマツ疎林とする。
- ・ナンキンハゼ林部の東部分は、浮雲園地の芝地を拡大する。



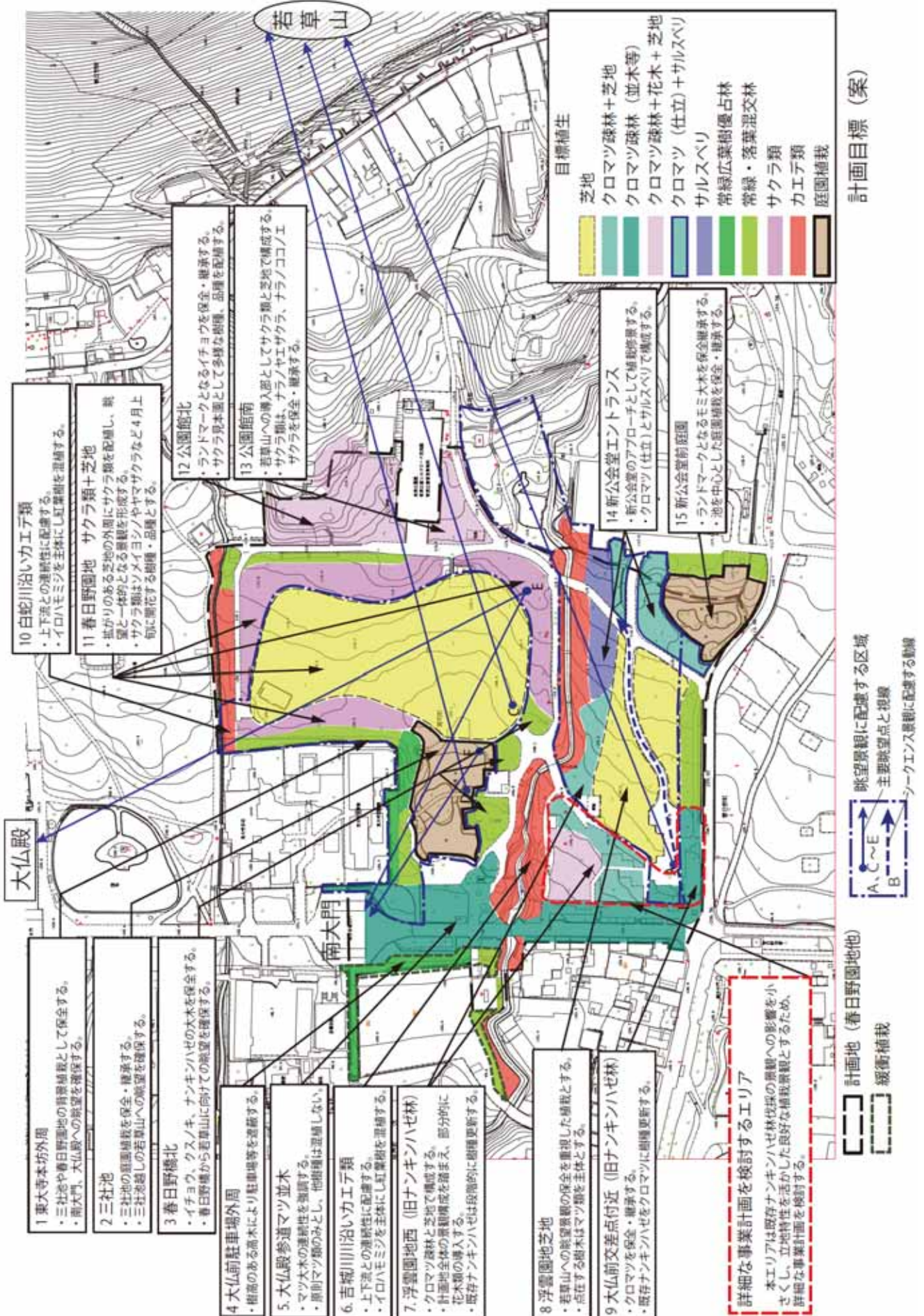
図：伐採候補樹木を取り除いた状況



図：将来の配植（案）

(3) 目標植生

計画地の目標植生は、前述した計画方針及び重要課題の検討結果を踏まえて、以下の図のとおりとする。



図：目標植生

II-3 計画実現に向けた対策の検討

(1) 課題の整理

計画を実現するためには、下表の課題に対応する必要がある。これらの課題のうち、幾つかについては、平成25年度に策定したクロマツ疎林ゾーン植栽計画において検討済みであることから、本計画地の計画検討においてに生じたあらたな課題について検討を進めることとする。

課 題		対策の方向性・その他
樹木の生育状況		
1	マツ枯れ（マツ材線虫病）	※対策として薬剤樹幹注入及び抵抗性マツの植栽を実施する。
2	サクラ植栽地の土壌の排水不良	△土壌改良工事（土壌改良材混入、透水管設置等）を実施計画で検討する。
3	サルスベリの樹形不良	△剪定方法の改善、又は樹木の植え替えの実施を実施計画で検討する。
各種整備による影響の低減		
4	ナンキンハゼ林の樹種更新	○樹種更新の考え方や事業の進め方等について検討する ※保存するナンキンハゼの管理方法については、種子剪定によるものとする。
5	その他の樹木の樹種更新・伐採	○整備の影響を低減するため、整備優先度を検討する。
6	眺望を阻害する植栽の対策	◇剪定等の実施方法は植栽管理計画で検討する。 ※伐採する場合は、5に含む。
整備後の植栽管理について		
7	サルスベリの剪定時期の改善	◇剪定等の実施方法は植栽管理計画で検討する。
8	後継樹木の育成(補植)	※クロマツとサクラ類については、継続的に補植を実施する。

※クロマツ疎林ゾーン植栽計画（H25）を参考とする

○本計画で検討を行う

△実施計画で検討を行う。

◇植栽管理計画で検討を行う。

(2) ナンキンハゼ林の樹種更新の検討

1) 樹種更新の実施方針

浮雲園地には樹齢 90 年を越えるナンキンハゼが 100 本程度あるが、公園全体の方針から「自然増殖を抑制できないナンキンハゼは駆除する」ことになっており、ナンキンハゼの大半は樹種更新する必要がある。この樹種更新にあたっては、景観の激変などの問題が発生しないように取り組む必要がある。

ナンキンハゼ林の樹種更新の実施方針

ナンキンハゼ林は、これまでと同等の景観の魅力を維持しつつ、段階的に樹種更新を行う。

- ・景観的に秀でたナンキンハゼは、管理可能な範囲で保存する。
- ・景観への影響が小さいナンキンハゼは、優先的に伐採する。
- ・景観への影響が大きいナンキンハゼは、十分な期間をかける中で段階的に樹種更新を行う。

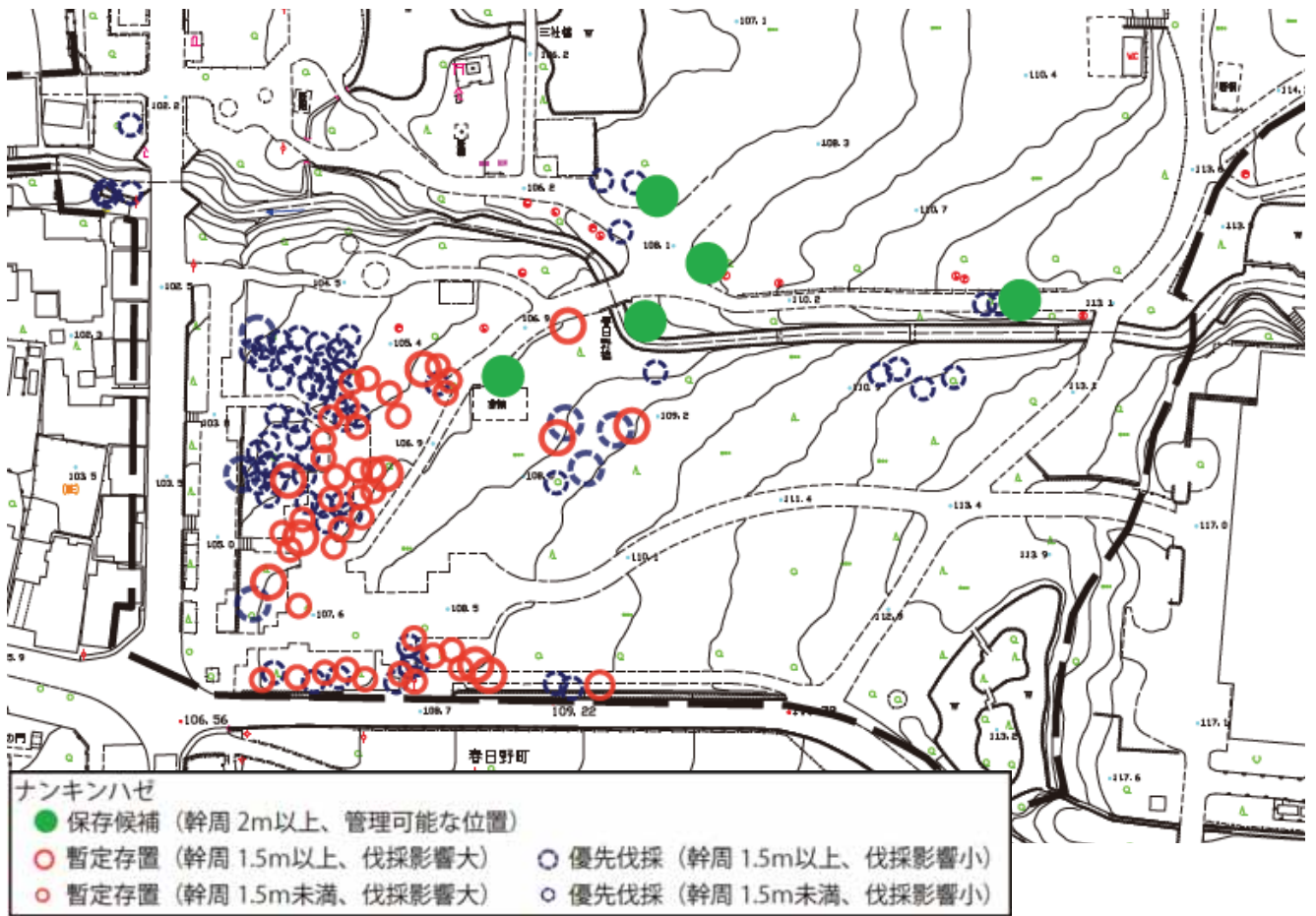
2) 樹種更新の実施区分

上述した実施方針を具体化するため、下表とおりに区分して樹種更新を実施する。

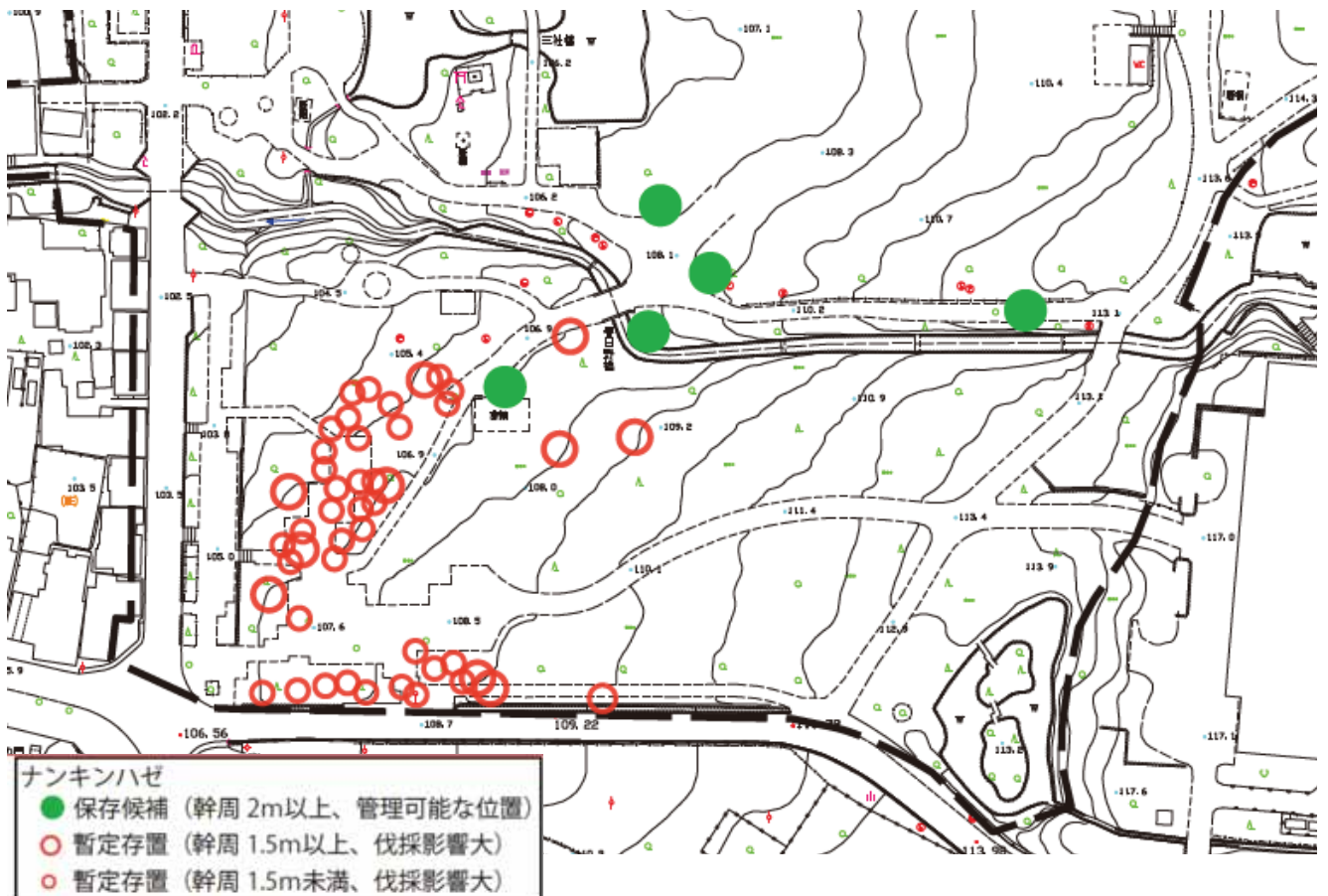
	区分条件	整備上の取り扱い(案)
保存候補	保存の価値があり、保存可能なもの ・大径木で樹形の良好なもの ・景観上保存することが望ましく、管理可能な位置にあるもの	・当該樹木は保存及び適正管理を行う。 ・「自然増殖を抑制」は、暫定存置樹木の伐採が完了した時点から行う。
暫定存置	伐採の景観への影響が大きいもの ・ナンキンハゼ林の外周部にあり、利用の多い広場等からよく見える位置にあるもの	・公園全体のナンキンハゼの伐採・駆除がある程度進むまでの期間は当該樹木を存置する。 ・当該樹木の伐採影響が小さくなるように、周辺に更新樹木を植栽し、育成を図る。
優先伐採	伐採の景観への影響が小さいもの ・他の樹木と混在しているもの ・ナンキンハゼ林内にあり、利用の多い広場等から余り見えない位置にあるもの ・ナンキンハゼ林内で択抜しても目立たないもの	・優先的に伐採を進める。 ・伐採箇所において更新樹木の植栽・育成を図り、暫定存置樹木の伐採が可能となる環境を作る。

表：樹種更新の実施区分

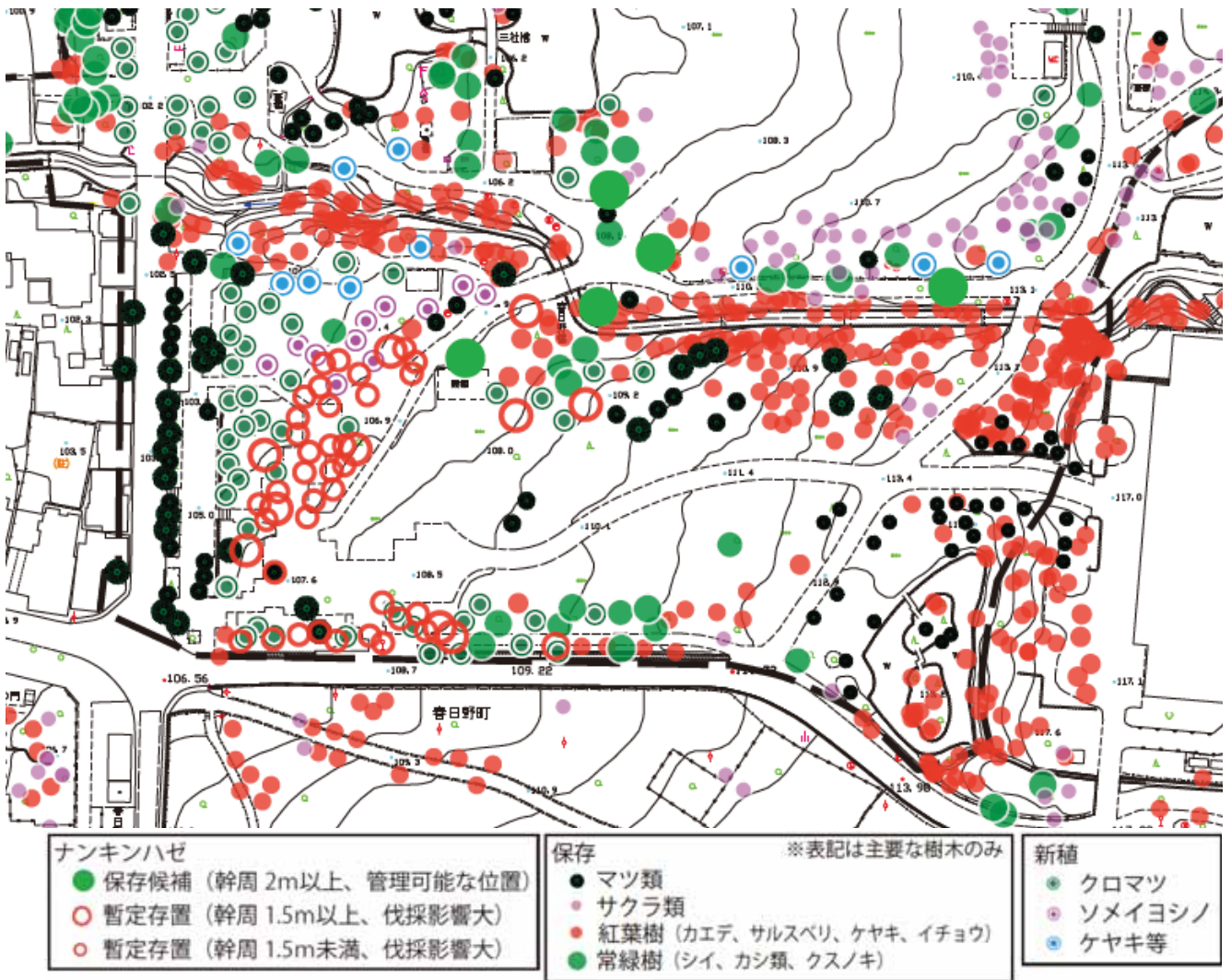
樹種更新が実際にどのように進められるのか、上表に従って平面図上でのシミュレーションを行う。



図：ナンキンハゼ 樹種更新タイプ区分



図：ナンキンハゼ 暫定存置の状況



図：ナンキンハゼ 暫定存置の状況（その他樹種を含めた表示）

3) 樹種更新期間の検討

ナンキンハゼ林の樹種更新を実施する期間を検討したものを下表にとりまとめる。

		当面整備期：約5年	更新樹木育成期：約10年	最終整備期：約5年
計画地 ナンキンハゼ	優先伐採	設計等	伐採工事	
	暫定存置			設計等 伐採工事
	保存候補			
計画地 更新樹木	ケヤキ・ソメイヨシノ・クロマツ	設計等	植栽工事	
その他区域 ナンキンハゼ	公園区域	設計等	伐採工事	
	民有地等	設計等	伐採工事	

表：ナンキンハゼ林の樹種更新期間（案）

(3) 整備による影響の低減

整備は樹木伐採を伴う場合が多いが、これにより景観の急激な変化が生じるほか、樹木伐採に対する市民の抵抗感があることから、整備手順や事業内容の広報などを十分に実施して、整備による影響をできるかぎり低減することが必要である。

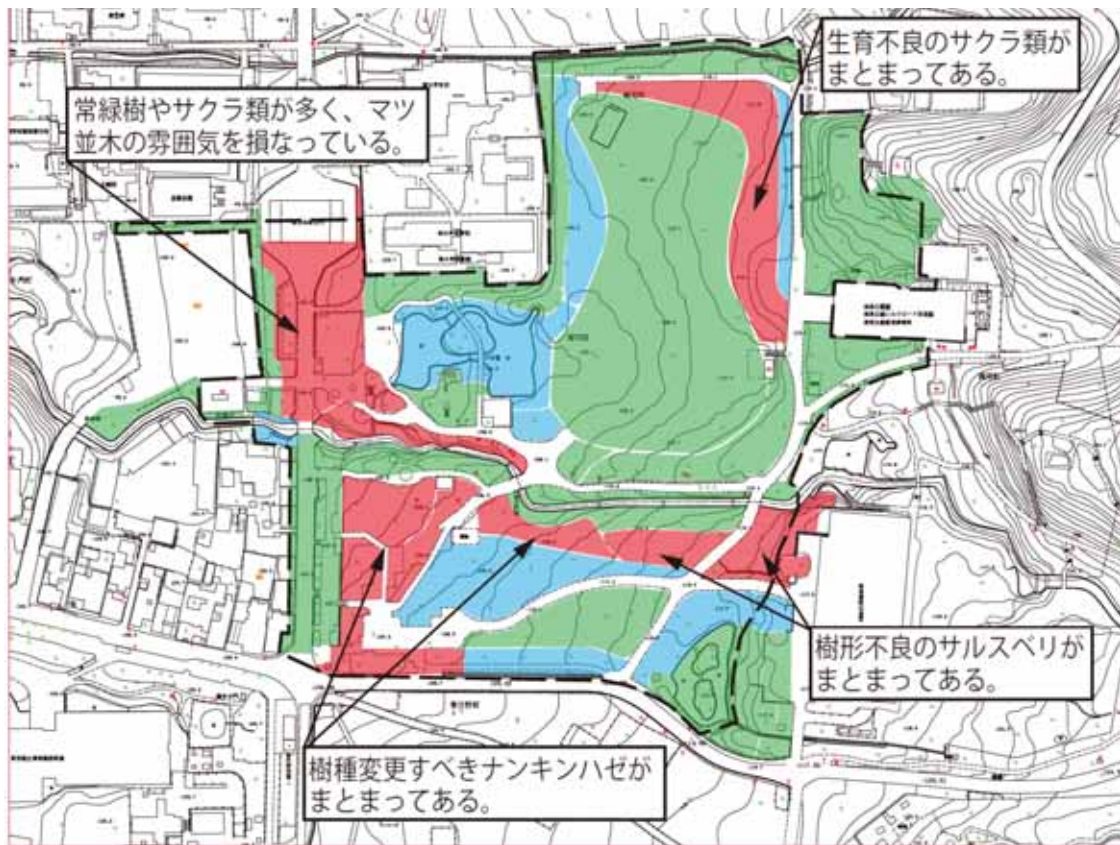
①整備影響の対応方向の区分

計画目標の空間単位について「改善必要度」と「伐採等の影響度」を評価し、この二つの関係から整備影響の対応方向を区分し、整備内容や整備手順を検討するための目安とする。

			改善必要度		
			高	低	保全・継承
			現状で問題が大きく意識される	現状で問題は目立たない	
伐採等の影響度	影響大	・伐採候補樹木がまとまってありかつ目立つ位置にある ・その他の理由によりまとめて伐採することが不適である	優先的かつ慎重に整備を実施	特に慎重に整備を実施	該当無し
	影響小	・目立たない場所にある ・伐採候補樹木は点在する ・密度調整のための択抜	優先的に実施	慎重に整備を実施	該当無し
	伐採無し		優先的に実施	適宜実施	適宜実施

表：整備影響の対応方向

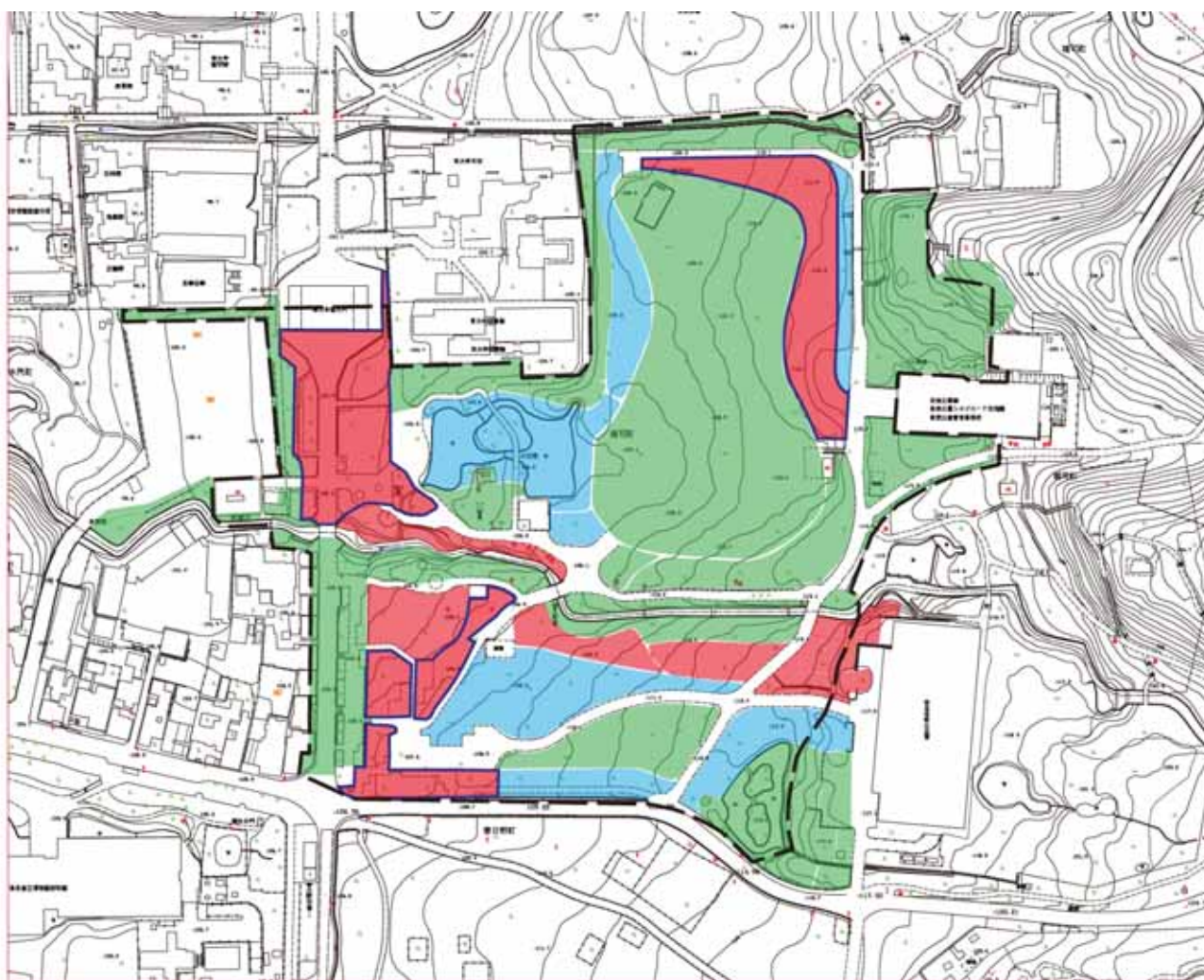
計画地について検討した結果は、下図のとおりである。なお、実際の整備内容や整備手順の検討は、他の条件も加味してより細かな単位で検討することが必要である。



図：改善の必要度



図：伐採等の影響度



〇〇 計画地 (春日野園地他)



図：整備影響の対応

②対応方向別の整備手順(案)

対応方向	整備手順(案)
優先的に整備	<ul style="list-style-type: none"> ・事業工程上、優先的に整備を実施する。
優先的かつ慎重に整備	<ul style="list-style-type: none"> ・事業工程上、優先的に整備を実施する。 ・原則として複数年に分けて段階的に伐採を行う。 ・単年度の単位空間あたりの伐採量を減らし、影響を小さくする。
慎重に整備	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として複数年に分けて段階的に伐採を行う。 ・単年度の単位空間あたりの伐採量を減らし、影響を小さくする。
特に慎重に整備	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間 (例：10年) かけて、段階的に伐採を行う。 ・景観的な影響が少ない樹木から伐採を行う。 ・樹種変更の場合は、できる限り変更後樹木の植栽を先行させる。
適宜整備	<ul style="list-style-type: none"> ・他区分の工程等を勘案して、適宜整備を実施する。

(4) 管理水準について

これまでの検討結果を踏まえて、管理水準を設定する。



図：管理水準の考え方

(5) 事業化の検討

これまでの検討結果を踏まえ、今後実施すべき事業内容を、短期と中長期、植栽整備と植栽管理に区分する。

事業課題		植栽整備		植栽管理		
		当面実施	将来実施	実施済 (継続)	当面実施	将来実施
1	マツ枯れ(マツ材線虫病)			●	●	●
2	サクラ植栽地の土壌の排水不良	● 土壌改良等				
3	サルスベリの樹形不良	● 植替			● 剪定改善	● 剪定改善
4	ナンキンハゼ林 の樹種更新	「優先伐採タイプ」伐採 +更新樹木植栽	●			
		「暫定存置タイプ」伐採		●		
5	その他の樹木の樹種更新・伐採 ※実施時期は4に対応して選択	●	●			
6	眺望を阻害する植栽の対策	● 択伐			●	●
7	サルスベリの剪定時期の改善				● 剪定改善	● 剪定改善
8	後継樹木の育成(補植)	●				●

※ ■ は、実施計画で検討する項目